

平成 30 年度さくらねこ無料不妊手術事業

行政枠協働ボランティア事後調査アンケート 集計結果

さくらねこ無料不妊手術事業とは

どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業」はノラ猫や多頭飼育の猫に対し不妊手術を行い、猫への苦情や、殺処分の減少に寄与する活動です。

平成 30 年度は 1,663 名の個人(一般枠)、25 の団体、81 の行政と協働し、約2万頭のさくらねこ無料不妊手術を実施しました。

1. アンケート概要

平成 30 年度に「さくらねこ無料不妊手術事業」に申請があった協働ボランティア(行政枠)に事後調査アンケートを実施しました。

※行政枠の対象は、行政(地方公共団体)およびそれに準ずる団体です。公園管理事務局等、行政が管理する施設の管理者や、大学等教育機関も行政枠の対象となります。

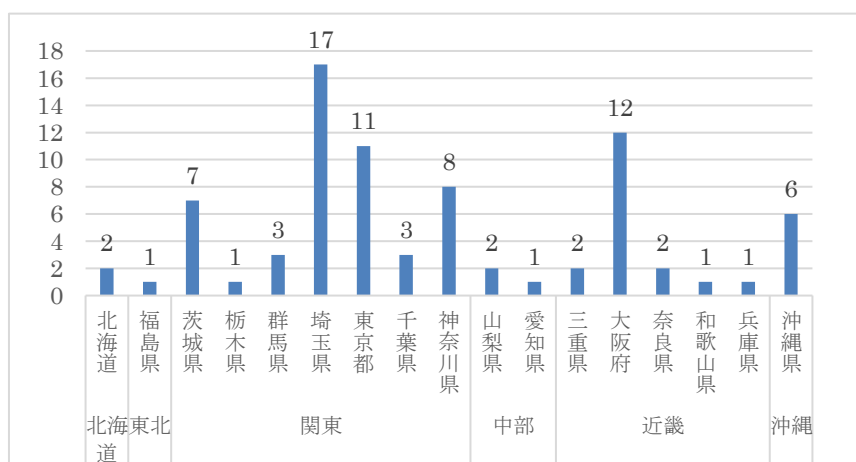
- ・平成 30 年度さくらねこ無料不妊手術チケット申請数 81 件
- ・アンケート有効回答数 80 件

2. 団体について

団体の種類	票数	%
地方公共団体(市町村)	67	84%
地方公共団体(都道府県)	4	5%
公園等の指定管理者	7	9%
その他	2	2%

3. 都道府県別団体数

埼玉県が 17 件で最多でした。次いで多いのは 12 件の大阪府ですが、地方別では関東が合計 50 件で全体の 6 割以上を占めています。協働ボランティアには大都市圏の行政が多いことがよくわかります。



4. チケットの使用について

申請者からのチケットの分配方法（複数回答）	票数	%
ボランティアに分配した	64	80%
申請団体が自ら猫を捕獲して使用した	19	24%

チケットの使用方法（複数回答）	票数	%
実際の TNR 作業はボランティアがすべて行った	61	76%
実際の TNR 作業は申請者自身がすべて行った	7	9%
申請者とボランティアが協働して TNR 作業を行った	18	23%

5. 猫の引き取り数

TNR 後の行政による猫の引き取り数について（回答数 53）	票数	%
前年と比べて減った	24	45%
前年と比べて変わらない	25	47%
前年と比べて増えた	4	8%

6. チケット申請回数

30 年度(30 年 4 月～31 年 3 月まで)にチケットを申請した回数	票数	%
1 回	21	26%
2 回	19	24%
3 回	20	25%
4 回	16	20%
5 回	3	4%
11 回	1	1%

7. 配布チケット数

30 年度に配布を受けたチケットの数	票数	%
1～10	8	10%
11～30	17	21%
31～60	19	24%

61～100	13	16%
101～200	18	23%
201 以上	5	6%

29%の団体が 101 枚以上のチケットの配布を受けました。

配布されたチケットの使用率	票数	%
100%	38	48%
80～99%	25	31%
60～79%	7	9%
40～59%	7	9%
20～39%	1	1%
1～19%	2	2%
使わなかった	0	0%

79%の団体が 80%以上の使用率でした。

8. 対象地域

さくらねこ TNR をした猫と地域について	票数	%
行政に地域猫活動地域として認められ管理されている地域	9	11%
行政が認めた地域猫活動地域ではないが、不妊・去勢手術の実施が必要な地域	62	78%
管理している施設の敷地(公園、港湾、学校など)	9	11%

行政に公式に認められた地域猫活動地域は 11%でした。

TNR を行った場所(複数回答)	票数	%
住宅地	63	79%
公園	36	45%
港湾	4	5%
学校	1	1%
公共施設	7	9%
その他	15	19%

9. 新たな捨て猫の数

TNR 後の新たな捨て猫の数について	票数	%
捨て猫が減った	14	18%
捨て猫の数は変わらない	9	11%
捨て猫が増えた	1	1%
わからない	56	70%

10. さくらねこ TNR を実施した猫の変化

TNR を実施した地域の猫に関して(複数回答)	票数	%
子猫の出産が減った	64	80%
猫の性格が穏やかになった	19	24%
さかり声、ケンカが減った・ほぼ無くなった	27	34%
尿臭が激減した・ほぼなくなった	13	16%
猫の健康状態が良くなった	12	15%
その他	6	8%

その他を選択した団体は、手術実施から間もないため経過観察中、あるいは変化があったかわからないという旨の回答でした。

11. 住民や猫ボランティアとの関係の変化

住民や猫ボランティアと申請者(行政側)の関係は	票数	%
良くなった	57	71%
変わらない	22	28%
悪くなった	1	1%

「悪くなった」と回答した団体は、今まで活動していた市民ボランティアがTNR活動を休止した関係で関係が悪くなったと報告しました。

12. 地域住民との関わりの変化

TNR を実施した地域住民との関わりの変化について(複数回答)	票数	%
住民の理解が得られた	34	43%
苦情が減った	44	55%
餌やりさんのマナーが改善された・意識が向上した	23	29%

協力してくれるひとが増えた(できた)	26	33%
地域の人に感謝された	23	29%
猫を可愛がってくれる人が増えた	8	10%
その他	1	1%
変わらない	11	14%

「その他」を選択した団体は、手術実施から間もないため回答できないとの回答でした。

13. 今後の課題

今後の課題や問題(複数回答)	票数	%
人手不足	44	55%
資金不足	36	45%
捕獲のやり方	20	25%
活動団体との調整	25	31%
地域住民との調整	46	58%
その他	0	0%
特になし	5	6%

14. 飼い猫の捕獲について

30年度の本事業で飼い猫を捕獲した事があった	票数	%
はい	4	5%
いいえ	76	95%

30年度の本事業で飼い猫を間違っ手術して問題になった	票数	%
はい	0	0%
いいえ	80	80%

アンケート回答者 80 団体のうち 4 団体(5%)が、飼い猫が捕獲機に入ったと回答。手術まで至った例はありませんでした。(飼い猫と判明した時点でリターンした。)

15. 所感

今回、行政枠無料不妊手術事業を活用して	票数	%
---------------------	----	---

大変良かった	65	81%
良かった	14	18%
普通	1	1%
悪かった	0	0%
大変悪かった	0	0%

「普通」と回答した団体からは、「野良猫被害に悩む地域住民のためにうまく活用することができた反面、市の申請方針(地域猫活動に準じた対応)に対する苦情、要望への対応が課題となった」という報告がありました。

16. 来年度に向けて

来年度も行政粋無料不妊手術事業を	票数	%
活用したい	73	91%
活用したくない	0	0%
検討中	7	9%

「検討中」と回答した団体からは、理由として人手不足やボランティアとの関係が挙げられました。

17. ピックアップコメント

【地域住民からの声や、地域住民との関わりにおいて気づいた変化】

●TNR活動が進むにつれ、相談の傾向が、ふん尿被害からその原因を作っている無責任なえさやり行為にシフトしており、マナー向上に向けた啓発等の充実の必要性を感じている。

●別件で町内を回る際などに、TNR について質問されることが増えました。これまでは行政が行う無料の避妊手術程度の認識であったのが、周知が進んだことで興味を持ってもらうことができるようになり、また進んで参加しようというボランティアさんが増えたことは今後 TNR を進めていくうえで大きな追い風になると考えています。

●餌やりさんにはご年配で一人暮らしの人が多く、ボランティアが餌やりさんの様子を定期的に見に行く事で、年配の方の安否確認も兼ねられている。地域住民から野良猫の情報がボランティアへ気軽に寄せられる様になった。小学生や中学生に動物愛護のお話をする機会が増えた。駅周辺の動物虐待が減った。室内飼いのお宅が増えた。外飼いが減ってきた。

●TNR 活動に理解を示し、ボランティア団体に寄付を申し出る方が増える一方で、猫が邪魔だからとにかくどこかへやってくれれば良いという声もあるため、TNR 活動について正しく理解してもらうよう説明する必要があると考える。

● ボランティアと TNR 活動を行うようになった結果、頻繁に情報交換を行うようになった。また、野良ネコの多い地区の住民の方から情報が多く寄せられるようになった。

【どうぶつ基金にご寄付をいただいた皆様へ】

● みなさまのご厚意により、今年も多くのさくら猫を誕生させることができ、まことにありがとうございました。今後もさくら猫の認知度を高め、TNR 先行型地域猫活動の普及・啓発を推進してまいりたいと考えておりますので、ご支援をお願いいたします。

● ご寄付を頂いた皆様、どうぶつ基金の皆様のご協力のおかげで、昨年度に引き続き本年度も TNR 活動を実施することができました。大変ありがとうございました。本年度は、市内に TNR 活動を実施するボランティア団体が結成され活動が広がっています。今後も、不幸な猫が増えないようボランティアの皆さんと協力し事業を実施してまいりたいと考えております。

● 皆様の御好意により、昨年度から多くの猫に対して活用させていただき、殺処分数や苦情の件数は着実に減ってきております。これからも、望まれない命を生みださない、人と動物との調和のとれた共生社会の実現に向け取り組んでまいります。

● 今年度から初めて利用させていただきました。今まで、生まれて直ぐに捨てられたり、生まれて直ぐに埋められ殺されてしまったりしていた状況や、野良猫に困っていた人や、かわいそうだと餌を与えていることを責められどうしていいかわからないで困っていた人など、どうぶつ基金の寄付金のおかげで、猫も人も救うことが出来ました。お礼の言葉を言われますが、尽力したボランティアや行政ではなく、その源となるどうぶつ基金へ寄付していただいた方々への感謝の気持ちと受け止めていました。本当にありがとうございました。今後も、寄付していただいた方への感謝の気持ちを持ちながら、少しでも小さな命を救う努力や適切な生活ができるようにボランティアの方々と行政で協力しながら努力して行きたいと思っております。

● 皆様からのご支援を賜り、野良猫の繁殖に起因する問題の解決に向け着実に取組を進めることができました。心からお礼申し上げます。今後も野良猫問題の解決を目指すとともに適正飼養の啓発に取り組んでまいりますので、引き続きご支援の程よろしくお願い申し上げます。

18. 総括

●行政枠のチケット発行団体数は、昨年度の 48 から今年度は 81 へと飛躍的に増加しています。このようにどうぶつ基金と協働する行政が増えていることで、同じように野良猫に関する問題を抱えている地方自治体が、他地域での豊富な成功事例を参照できるようになります。その結果、TNR 活動に慎重な自治体であっても、そうした前例を根拠として TNR 活動を開始しやすくなると考えられます。このような循環により、行政枠の協働団体は今後もさらに増えていくことが期待できます。

●アンケートに回答した 80 団体中 79 団体が、今回、行政枠無料不妊手術事業を活用して「大変良かった」又は「良かった」と回答しました。その理由として、自治体の予算に制約がある中、ボランティアに経済的負担を負わせることなく、より多くの TNR を実施できたという声が多く挙がりました。さらに、「市民への啓発やボランティア団体との関係強化に役立っている」、「野良猫の問題をきちんと考えて下さる地域住民や自治会が増え、動物愛護への関心も高まった」、「ボランティア及び地域自治会と協働により事業に取り組めたことで知見やノウハウが蓄積され、ネットワークや協力体制が構築できた」といった報告もあり、野良猫の数の抑制や苦情の減少といった直接的な効果以外にも、幅広い効果が表れていることが確認できました。「これまで個人枠で活動されていたが、行政枠を活用することで施術できる頭数が増えた」、「行政枠で行うからこそ苦情、トラブルが発生しない」、「ボランティアに対し、行政が一方向的に頼るばかりでなく、間接的ながら支援を行うことが可能になった」という声からは、行政とボランティアが各々の強みを活かし、手に手を取り合って活動している姿が目に見えます。

●行政に公式に認められた地域猫活動地域での事業は回答 80 件中の 9 件で、割合で言うと 11% でした。一般枠及び団体枠のアンケート結果で得られた割合よりは多いものの、地域猫活動地域の認定を行う存在である行政自身であっても、大多数がどうぶつ基金のさくらねこ無料不妊手術事業を活用している状況からは、改めて従来型の地域猫活動普及の難しさが伺えます。「県の地域猫活動事業は手術後も餌やり清掃等の管理が必須なため、住民に理解協力が得られず、具体的な解決策が見つからないでいた」、「行政枠無料不妊手術事業では少数頭の随時手術が可能で、行政側とボランティアさんだけで実施できるのでこれまで TNR を実施できなかった地区でも実施することができ、大変助かりました」といった回答者の声には、行政の地域猫活動の枠組みの課題が明確に示されています。

●「行政の補助金と違い、書類等手続きがスムーズ」、「市の補助金活用には、条件が多くあること、予算額が少ないことなどから、実施には制約がある。行政の手の届きにくい条件のネコにも活用することができた」という回答からも、どうぶつ基金のさくらねこ無料不妊手術事業の実施の容易さ、そして行政の枠組みに対する優位性が確認できます。認定地域外での TNR 活動は、どうぶつ基金の提唱する TNR 先行型地域猫活動の実践です。従来型の地域猫活動を主導する環境省には、合意形成に時間を要する従来型の地域猫制度の見直しを行い、既にさくらねこ TNR 活動を展開している行政、さらに自治会や NPO 法人等と連携して、TNR 先行型地域猫活動の推進と普及啓発に協力することを期待します。